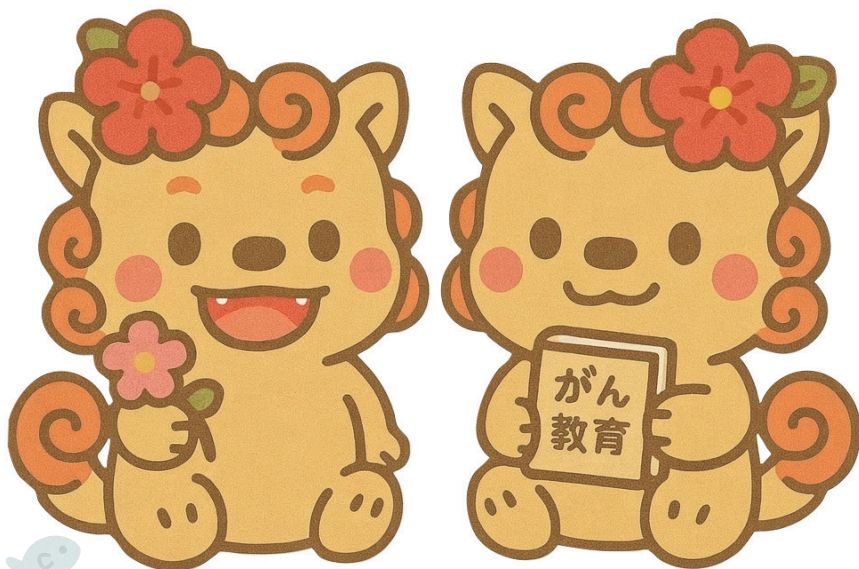


# おきなわがん教育 ハンドブック

～ちむぐる(肝心)でつなぐがん教育～



Okinawa Cancer Education  
HANDBOOK

## 目次

はじめに	2
理事長あいさつ	3
がん教育とは	4
沖縄県のがん対策における「がん教育」の位置づけ	5
がん教育において外部講師を活用する意義	6
外部講師が提供している授業のパターン	6
授業の実践例	7
・豊見城市立上田小学校	8
・糸満市立糸満小学校	10
・那覇市立金城中学校	12
・沖縄県立開邦中学校	14
・沖縄県立那覇国際高等学校	16
ご依頼から授業までの流れ	20
よくあるご質問やご相談	21
外部講師からのメッセージ	22
資料・参考リンク集	26
おわりに	27

## はじめに

今日、「がん」は日本人の2人に1人が経験する身近な病気であり、沖縄県でも主要な死因となっています。こうした状況を受け、国は「がん教育」をがん対策の重要な柱と位置づけ、学校でのがん教育は本格的に始まっています。

本ハンドブックは、学校でがん教育を円滑に進めるために、外部講師の活用方法や授業づくりのポイント、関係者との連携の工夫をまとめたものです。

先生方や外部講師の皆さまが、授業準備や連携を進める際の実務的な手引きとして活用していただければ幸いです。

NPO法人沖縄がん教育サポートセンター

## 理事長あいさつ

NPO法人沖縄がん教育サポートセンター 理事長 徳元 亮太

NPO法人沖縄がん教育サポートセンターは、がんに関する正しい理解と、がんと向き合う人々への共感的理解を広げることを目的に、2023年に設立されました。医療専門職とがん経験者が協働し、子どもたちに命や健康の大切さを伝える活動を行っています。

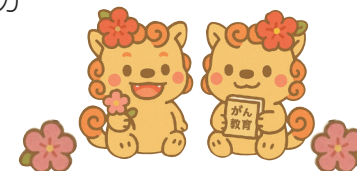
がん教育は、先生方の日々の実践があってこそ成り立つものです。私たちは、その取り組みを支えるパートナーとして、学校と地域が協力しながら子どもたちの学びを育めるよう努めています。

本ハンドブックが、外部講師を安心して活用し、がん教育をより豊かに実践していただく一助となれば幸いです。

### 沖縄がん教育サポートセンターの取り組み



1. 外部講師の育成とサポート
  - ・がん教育講師育成研修の実施
  - ・模擬授業の共有や授業の振り返りによる「フォローアップ研修」の実施
  - ・外部講師の授業の個別サポート（事前の資料作成・学校との調整など）
  - ・がん教育に関する勉強会や講演会の開催
2. 外部講師の派遣
  - ・県内小・中学校・高等学校へ外部講師の派遣  
（学年単位／学級単位／PTA対象など、ニーズに応じて柔軟に対応）
3. その他 教職員向けの説明会・情報提供
  - ・がん教育を検討されている学校の教職員向けの説明
  - ・沖縄県教育委員会主催研修会への協力



## がん教育とは

### がん教育の定義

(文部科学省:「学校におけるがん教育の在り方について」より抜粋)

がん教育とは、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育。

### がん教育の目標

1. がんについて正しく理解できるようにする
2. 健康と命の大切さについて、主体的に考えることができるようにする

### がん教育の具体的な内容

1. がんとは(がんの要因等)
  2. がんの種類とその経過
  3. 我が国のがんの状況
  4. がんの予防
  5. がんの早期発見・がん検診
  6. がんの治療法
  7. がん治療における緩和ケア
  8. がん患者の生活の質
  9. がん患者への理解と共生
- 上記の内容を関連付けて、理解できるようにする。またそれぞれの内容を関連付けて、一次予防(生活習慣の改善等)、二次予防(がん検診等)について理解できるようにする。
  - 現在および将来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。



## 沖縄県のがん対策における「がん教育」の位置づけ

沖縄県は「県民が、がん予防や検診による早期発見の重要性を理解し、がんと正しく向き合える社会」を目標に、第4次がん対策推進計画(2024~2029)を進めています。その中で、**がん教育とがんに関する知識の普及啓発**では、次の施策を掲げています。

- **施策1：がんに関する正しい知識の普及啓発を進める**
- **施策2：学習指導要領に基づく、児童生徒の発達段階に応じたがん教育を推進する**

とくに施策2では、以下の点を明示しています。

- **県教育委員会と市町村教育委員会は連携して、学習指導要領に基づく、児童生徒の発達段階に応じたがん教育を推進する。**
- **県教育委員会と市町村教育委員会は関係団体等と連携し、がん教育において、医療従事者やがん患者等の外部講師の積極的な活用についても推進する。**

### 沖縄県の健康課題と子どもへの影響

かつて長寿県として知られた沖縄ですが、現在は生活習慣病の増加や全国平均を上回る肥満率など「沖縄クライシス」と呼ばれる健康課題が指摘されています。がんも死因の第1位であり、**男性の大腸がん・前立腺がん・肺がん、女性の乳がん・子宮頸がん・大腸がんの罹患率・死亡率が高いことが特徴です。**飲酒・肥満・運動不足などの生活習慣に起因する**がんの予防、感染症由来のがん(ヒトパピローマウイルス・肝炎ウイルス)の対策**、働き盛り世代のがん検診受診率向上が重要な課題となっています。

とくに子どもの肥満率は全国で最も高く、朝食欠食、睡眠不足、運動不足など、日常の生活習慣に課題がみられます。これらは将来の生活習慣病リスクにつながるため、学校での学びや生活指導が大きな役割を果たします。

また、低出生体重児の多さや若年妊娠など、女性の健康に関する課題も沖縄の特徴です。思春期の段階で自分の体や健康について正しく理解することは、将来の健康づくりの基盤になります。

さらに、子どもの貧困や家庭環境の違い、離島地域の医療アクセスなど、健康に影響する背景はさまざまです。**だからこそ学校でのがん教育は、知識を伝えるだけでなく、どのような環境でも自分の健康を守る力を育てる大切な機会になります。**

## がん教育において外部講師を活用する意義

厚生労働省は、学校でのがん教育をより効果的にするため、医師やがん患者・経験者などの外部講師を活用し、正しい知識や当事者の声を子どもたちに伝えることが重要であると示しています。文部科学省も、がん教育の目的や意義を地域と共有し、医療従事者やがん経験者など学校外の人材を積極的に活用することを求めています。多様な専門性や経験をもつ人材が関わることで、がん教育はより実践的で効果的な学びになると期待されています。

(外部講師を活用したがん教育ガイドラインより抜粋)

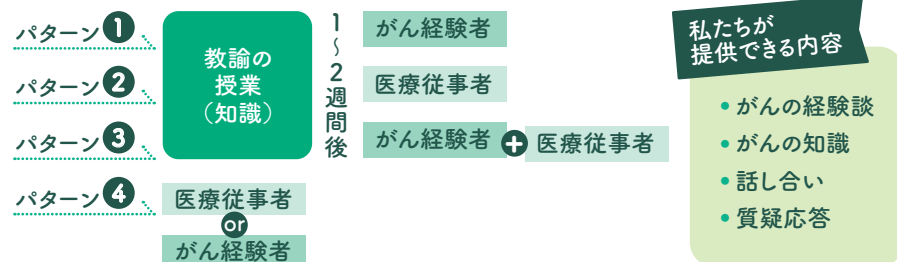
## がん経験者の語りは・・・

- 実体験に基づく“リアルさ”と“説得力”があります。
- 子どもたちは「自分ごと」として命や健康を考え、偏見や恐怖が和らぎ、将来の健康行動につながる気づきが生まれます。
- がん教育を知識の伝達から“生きる力を育む学び”へと深める大切な教育資源です。

## 外部講師が提供している授業のパターン

外部講師には、さまざまながん経験者（乳がん、大腸がん、小児がん、甲状腺がんなど）や遺族、がん医療に携わる医療従事者（医師・看護師など）が在籍しています。同じがん種でも経験は人それぞれ多様です。授業の構成は学校のご要望に応じて、ともに作ってまいりますので、ご依頼の際はぜひご要望をお聞かせください。

### （授業の構成パターン）



※外部講師は、文部科学省「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」および全国がん患者団体連合会「がん教育における配慮事項ガイドライン」に沿って育成しています。

※がんの知識は、文部科学省の「がん教育推進のための教材」内容に基づいて提供しています。



豊見城市立 上田小学校

糸満市立 糸満小学校

那覇市立 金城中学校

沖縄県立 開邦中学校

沖縄県立 那覇国際高等学校

ワークを取り入れた授業の紹介

沖縄県立 那覇国際高等学校

# 豊見城市立 上田小学校

日程	2025年9月29日	時間	5校時 45分	授業者	①医師 ②がん経験者
人数	118名	場所	体育館	講師	①宮里恵子 ②徳元亮太
対象	6年生	科目	保健体育	構成	知識, 体験談, Q&A

## 授業のねらい

- ① がんやその予防方法, 検診について学ぶ。
- ② 自他の健康と命の大切さやこれからの生き方を考える。

## 授業の流れ

### 導入 2分

講師紹介・趣旨説明

①がんについての基礎知識(医師)(20分)  
がんの原因, 治療, 予防

### 展開 45分

②経験談(がん経験者)(15分)  
告知された時の気持ち, 治療中の支え, 経験からの学び

### まとめ 8分

感想文とアンケートに記入し, 共有する

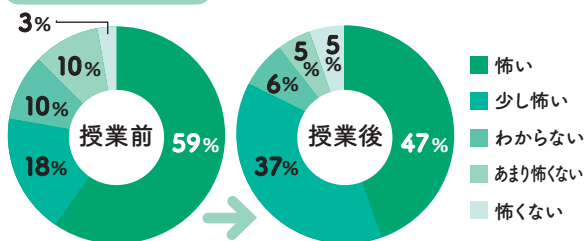
## 工夫 / 配慮した点

### 事前調整

- 事前打ち合わせ(オンライン)にて, 授業スライドの確認
- 生徒へ授業前後のアンケートの実施
- 事前に保護者へ外部講師の授業を周知し, 配慮が必要な生徒の確認

### アンケート結果

あなたは「がん」が怖いですか?



## 生徒からの感想

一人で抱え込まず,  
**信頼できる人に  
相談すること**  
が大切だとわかりました。

がんは二人に一人がなると聞いて,  
**自分にも関係のある病気だ**  
と思いました。

がんになっても  
前向きに生きている話を聞いて,  
**希望を持つことが大事**  
だと思いました。

がんの人がいたら,  
**普通に接してあげたい**  
と思いました。

自分の体験を話してくれて  
ありがとうございました。私も  
**困っている人に  
寄り添える人になりたい**です。



## 授業担当教諭からのコメント

養護教諭

比嘉 雅代 先生

外部講師を活用したPTA主催の「親子で学ぼうがん教育」では, 親子でこれからの生活をどのように送るべきかを見直し, がん向き合う人々と, 共生していくためにはどうしたらよいのか, 考えるきっかけになったと思います。また, 6年生の保健学習では, 児童は, 外部講師からがんサバイバーのリアルな話を聴くことで, がんの予防や生活習慣の改善が必要であることに気づき, 自らの健康について深く考えるきっかけとなりました。今後も養護教諭としてがん教育を推進していきます。



# 糸満市立 糸満小学校

日程	2026年2月10日	時間	3校時 45分	授業者	がん経験者
人数	3クラス 80名	場所	教室	講師	徳元, 金城, 玉寄
対象	6年生	科目	保健体育	構成	体験談

## 授業のねらい

- 1 身近な病気としてのがんを正しく理解すること。
- 2 健康と命の大切さについて考えること。

## 授業の流れ

### 導入 2分

講師紹介・趣旨説明

### 展開 33分

- 体験談(約20分)
- 質疑応答(13分)

### まとめ 10分

- 振り返りシートへの記入時間(5分)
- 記入した学びを発表し全体共有する(5分)

## 工夫 / 配慮した点

### 事前調整

- 事前打ち合わせ(オンライン)にて、授業スライドの確認。

### 授業中

- 授業開始時、生徒へ気分不良やつらい気持ちになった場合は退室してもよいことを説明。
- 教諭と連携しながら、生徒のテーブルを回り、質問しやすい雰囲気をつくった。



## 生徒からの感想

もし  
**家族ががんになったら、サポートできるように**  
励まして話を聞いてあげたい。

実際にがんを経験した先生が一生懸命に話してくれたから、

**私も一生懸命に話を聞いて考えよう**と思った。



体に異変があったらすぐに家族に知らせて、  
**早期発見と早期治療に努めることが大事**  
だと分かった。

## 授業担当教諭からのコメント

### 6年1組

屋我 裕紀 先生

主に沖縄戦について調べる平和学習、「生命の尊さ」や「家族愛」等の内容項目のある道德など、ふだんから命を題材にした授業はある。しかし、今回の講話ではこれまで以上に子ども達は正面から自分や大切な人の命に対して向き合い、真剣に考える姿が見られた。それは講師の実際の経験のリアルさと子ども達に伝えたい思いが届いたからだと思う。ぜひ多くの学校で取り入れて、命に対して真剣に考える子どもを多く育ててもらいたい。

### 6年2組

宮城 那津美 先生

がんという病気は知っているもののどんな症状があるのか、何が大変なのかなど知らないことは、子ども達だけでなく大人もたくさんある。今回は、イラストで自身の経験を教えてもらったり、たくさんの質問に答えてもらったりしていただいた。がんのことでだけでなく、定期検査の大切さやなにげない日々の生活への感謝などたくさんの学びがある時間となった。

### 6年3組

渡眞利 大輔 先生

がんは怖いものというイメージのなか、徳元さんのがんを克服した話や周りの人への相談で心が晴れたという内容だったので、子どもたちの中で少しイメージが変わった人もいた。また、質問時間も長く設けていただいたので、子どもたちのがんに対する疑問が解決したのではないと思う。子どもたちも聞いてほしいが、多くの大人にも参加して聞いてほしいと思う内容であった。

# 那覇市立 金城中学校

日程	2025年12月1日	時間	3校時 50分	授業者	がん経験者
人数	35名	場所	教室	講師	大嶺 ひとみ
対象	2年生	科目	保健体育	構成	体験談, ワーク

## 授業のねらい

外部講師の講話を通して、「がん」のリスクの軽減方法や克服していくための方法を考えられるようにする。

## 授業の流れ

### 導入 5分

- 前回の授業の振り返り,
- 今回の授業のめあてを確認

### 展開 40分

- 体験談の講話(20分)
- 気づきや感じたことをグループで共有(15分)
- 質問への対応(5分)

### まとめ 5分

- 振り返りシートの記入

## 工夫 / 配慮した点

### 事前調整

- 事前に家族等にごがん経験者がいる等、配慮が必要な生徒の把握

### 授業中

- 難しい用語はできるだけ使わず、生徒が理解しやすい言葉で説明するよう心掛けた。
- グループワークでは、教諭と連携しながら外部講師が各グループを回り、その場で生徒からの質問に答えることで生徒との関係づくりを大切にしたい。
- 若年性がんの体験を伝える際は、不安をあおらないよう表現や伝え方に十分配慮した。



## 生徒からの感想

がんは、  
**生活習慣や老化  
だけではなく、**  
遺伝も関係している  
ということを知りました。

未成年でも  
がんになるという事に  
びっくりしたし  
**身近な病気だと  
学んだ。**

がんが早期発見の場合、  
**治療方法や治療期間も  
変わってくる**  
ということを知りました。

がんは50代～70代と  
老いてからなる病気というイメージが  
強かったが、話を聞いて  
子供でも若い人でも発症するということを知り、  
**がんを知ることの大切さ**  
を学んだ。

ありがとう



## 授業担当教諭からの コメント

保健体育教諭  
後間 明子先生

外部講師の方の実体験には、教員の説明だけでは得られない「生の重み」があり、生徒ががんを「自分ごと」として捉える上で、外部講師活用の意義は極めて大きいと感じました。がんを単に恐れる対象から、早期発見や共生社会への理解へと意識が変容したことは大きな成果になっていると思います。今後も正しい知識と共感性を育むため、「健康教育の一環」として外部連携を積極的に推進し、指導の充実を図っていきたいと考えます。

# 沖縄県立 開邦中学校

日程	2025年9月30日	時間	6校時 60分	授業者	がん患者遺族、医療従事者
人数	40名	場所	教室	講師	島袋 枝梨子
対象	2年生	科目	保健体育	構成	知識、体験談、Q&A

授業のねらい 「がん」を他人事ではなく、自分事として捉えることができる

## 授業の流れ

**導入** 5分  
講師紹介・趣旨説明

**展開** 45分

- 家族のがん（スキルス胃がん）体験の講話（30分）
- 質問への対応（15分）

**まとめ** 10分

- 振り返りシートへの記入時間（5分）
- 記入した学びを発表し、全体共有する（5分）

## 工夫 / 配慮した点

**事前調整**

- 事前打ち合わせ（オンライン）にて、授業スライドの確認
- 事前に保護者へ外部講師の授業を周知し、配慮が必要な生徒の確認
- 担当教諭の「がんの知識」の授業後、生徒から外部講師への質問を聴取

**生徒からの質問(例)**

- ・がんになって、人生はどのように変わったのか？
- ・家族ががんになった時は、どのような声かけ、対応、サポートが良いですか？

**授業中**

- 授業開始時、生徒へ気分不良やつらい気持ちになった場合は退室してもよいことを説明

講話のあと、生徒さんの質問にお答えします！



## 生徒からの感想

自分はならないだろうと甘くみていた「がん」に対して、**自分になるかもしれない**と危機感を持ちました。

## 「生きていることに感謝」

という言葉を大切に、今を生きたいなと思いました。

自覚症状がないことで発見が遅れると聞いて怖かったけど、**早期発見で治る確率も上がる**ことが分かり、怖がらずに検査しようと思いました。

## 授業担当教諭からのコメント

保健体育教諭  
高里 樹 先生

がん教育は今後の生徒の人生、そして日本社会においても非常に大切な内容であり、外部講師と協力した授業は生徒たちに学びや思考をより深めるためにとても効果的だと思いました。授業を受ける前までは「がん」という病気に対して漠然としたイメージしかなかった生徒たちでしたが、授業後はがんについて正しい知識を得ることができました。また、検診を受けること・予防に努めることの重要性に気づいた生徒も多く、いつも賑やかな生徒たちが真剣に話を聞いたり、話し合う姿を見て、生徒の心に残る授業だったと実感しています。

日程	2025年12月16日	時間	2校時 50分	授業者	がん看護専門看護師
対象	1年生2クラス(80名)	場所	体育館	講師	狩俣 勇斗
	2年生1クラス(40名)	科目	保健体育	構成	知識, 体験談, ワーク

授業のねらい

- がんを単なる知識として理解するのではなく、自分自身や身近な人の人生と結びつけて考える力を育む。
- 生徒一人ひとりが自分の考えや感情に向き合い、他者の感じ方や価値観の違いを尊重しながら思考を深める姿勢を養う。
- がんや緩和ケアに対する誤解や偏見を正し、「支え合い」、「希望」という視点で命と向き合う態度を育てる。

授業の流れ

導入  
5分

- 前時(教諭によるがんの知識の授業)の振り返り
- 本時のめあての確認
- 外部講師の紹介

展開  
40分

- 講話, グループワーク(30分)
- 担当教諭が生徒へインタビューを行い, 講師と交流(10分)

まとめ  
5分

- 本時のまとめを記載する

工夫 / 配慮した点

事前調整

- 打ち合わせにて、生徒の雰囲気、配慮が必要な生徒の有無を確認。
- 授業後、不安が生じた際の相談先を共有し、継続したケアができる体制を整えた。

授業中

- 生徒が受け身にならないよう、問いかけやワークを取り入れ、「アウトプットする姿勢」を引き出すよう工夫した。
- 意図的に「頭の中で考えてみてください」と問いを投げかけ、全員が思考を止めない授業設計を心がけた。
- 「考える→聴く→考える」という流れをつくることで、大人数の授業でも集中が続くように工夫した。

グループワークの実施方法

- 前後左右の4~5人を1組として自然に意見交換できるよう生徒を配置。
- ワークは1回約2分程度とし、集中力が途切れないよう短時間で実施。

ワーク内容  
(問い)

- がんについてどのようなイメージを持っているか。
- 身近な人ががんになったとき、本人に知らせるかどうか。
- 緩和ケアに対するイメージ

ワーク中

- ゆっくり歩きながら各グループに声をかけ、「どう思った?」などと問いかけ、生徒が質問しやすい雰囲気をつくった。
- 無理に発言を促さず、沈黙も学びの一部として尊重した。

生徒からの感想

人とコミュニケーションを取るときは  
相手の気持ちを察して、

相手の尊厳を守りながら  
会話していこうと思った。

緩和ケアは、

治らない人のケアという

マイナスなイメージを持っていたが、

患者さんの尊厳を守り、

少しでも楽に治療ができるようにする、  
素晴らしいケアだとわかった。

治療も大切だけど、  
心のケアもしていくことで、

患者さんや家族も安心して  
過ごすことができる。

がん教育は、生きる力を育む

重要な教育であり、学校で科学的根拠に基づいた知識  
(早期発見による生存率の高さ、治療法の多様化など)を学ぶことは、

将来の過度な不安を抑え、  
検診などの適切な行動につながると思う。



# 沖縄県立 那覇国際高等学校

日程	2025年12月18日	時間	5校時 50分	授業者	がん経験者
対象	1年生1クラス(40名)	場所	体育館	講師	金城 和久子
	2年生2クラス(80名)	科目	保健体育	構成	体験談, Q&A

## 授業のねらい

### 1年生

生活習慣病などの予防と回復の課題を発見し、解決の方法を思考・判断し表現し理解できるようにする。

### 2年生

生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し解決を目指した活動を通して健康について理解を深めそれらを表現することを理解できるようにする。

## 授業の流れ

### 導入 5分

- 前時(教諭によるがんの知識の授業)の振り返り
- 本時のめあての確認
- 外部講師の紹介

### 展開 35分

- 体験談, 生徒の質問対応(30分)
- 担当教諭が生徒へインタビューを行い、講師と交流(5分)

### まとめ 10分

- 本時のまとめを記載する
- 生徒による学びの発表を行い、全体共有する。

## 工夫 / 配慮した点

### 事前調整

- 事前打ち合わせ(オンライン)にて、授業スライドの確認
- 生徒への事前アンケートの実施

### 生徒からの質問(例)

- がんの治療にいくらかかりましたか?
- がんになった時、不安にのまれることはありましたか?
- 治療が終わった時、どのように感じましたか?
- がんにならないために、自分たちにできることはなんですか?

### 授業中

- 医学的な知識や情報には触れず、自分の体験談を詳しく伝えるよう心がけた。
- 生徒数が多かったので、なるべく一人一人の顔を見渡しながら話すようにした。

## 生徒からの感想

がんはいつ誰がなるかも分からないから定期的に検診をする必要があるとわかった。

今日の授業を通してがんは治らない病気という偏見や思い込みは良くないと感じた。

がんは早期発見・早期治療によって治すことができるとわかった。

身近にがん患者がいるので、今日の講話でより理解を深めることができたし、がんになったらどうしたらいいのかも分かったので、これからもこのような講話が増えてほしい。

早期発見に繋げるためにも、がんについての知識をもっと増やしていこうと思った。

うれしい!



## 授業担当教諭からのコメント

保健体育教諭

石嶺 スーザン 先生

がん経験者からの直接話を聞くことは、生徒と私自身にとって多くのことを学ぶことができました。がんは生活習慣(食事、喫煙、運動)などに起因することで、がん検診の重要性や自分自身のライフスタイルに対する健康管理に対する意識、現実的な視野を身につけることなど、大切な場であることを実感しました。これからもがん教育を通して、経験者からの講話を持続できる環境を増やしていきたいと考えています。



## ご依頼から授業までの流れ

問い合わせ  
・  
お申込み

下記サイトのお問い合わせフォーム,またはメールに  
必要事項をご入力の上,お申込みください。

(お申込みは2~3か月前までにお願いします。)

沖縄がん教育サポートセンター ホームページ

<https://okinawa-cancer-education.org/>

メール

[okinawa.cancereducation@gmail.com](mailto:okinawa.cancereducation@gmail.com)

### 必要事項

- 学校名, 担当者氏名 / 連絡先 (電話・メール)
- 対象学年と人数, 授業科目名, 希望日程
- 授業に対するご要望  
(講師, 目的・学習のねらいなど)



ご要望の内容を確認次第,  
事務局よりご連絡いたします。

事務局より  
ご連絡

講師決定の  
ご連絡

ご依頼の授業内容に基づいて, 最適な外部講師の  
人選を行い, 詳細の授業日時, 講師を決定します。

事前  
打ち合わせ

外部講師, 学校ご担当者様(教諭)と日程調整の上,  
授業の打ち合わせを行います(オンライン)。  
より良い授業を提供するために, ご担当の先生との  
丁寧な打ち合わせ及び授業を受ける生徒さんの  
情報共有(内容, 配慮が必要な生徒の情報, 保護者  
様への事前のお知らせの依頼による反応など)  
を行います。

授業当日

授業終了後, ご担当の先生から生徒さんの学びに  
ついて, フィードバックいただき, 次回以降の授業の  
参考にしています。

## よくあるご質問やご相談

授業の日時や所要時間, 人数など, 授業の方法や進め方は?

授業の日時や時間など, ご希望をお聞かせください。  
学校のご要望(クラス単位, 学年ごとなど)に応じて柔軟に対応いたします。



外部講師の講師料や交通費は?

外部講師の講師料や交通費について, 学校側のご負担はありません。



講師(医療従事者またはがん経験者)は学校側で選択できますか?

学校のご要望に応じて講師を選定いたします。お申込みの際, 具体的な  
ご要望をご入力ください。



授業の打ち合わせはどのように行っていますか?

ご依頼内容に基づいて, 当センターから講師の決定, 打ち合わせ日程の  
ご相談について, メールでご連絡します。打ち合わせでは, 授業内容や配慮事項  
の確認, 授業で使用する機材やツールの確認(ノートパソコン, スライド使用等),  
授業で使用する資料の共有・確認などを行います。必要に応じて1, 2回行って  
います。打ち合わせ方法は, オンライン, 対面のいずれにもご対応いたします。



がんの治療中, または病気の児童生徒がいます

担任教諭から, 事前に保護者・児童/生徒へ, 外部講師が授業を提供すること  
についてお伝えいただき, 児童/生徒・保護者の不安・懸念事項について把握  
いただきたいと思います。事前打ち合わせの際, これらを共有し, 具体的にどの  
ような配慮が必要かを話し合いたいと思います。必要があれば, 保護者の方へ,  
外部講師による授業の資料(スライド)も事前にお渡しすることも可能です。  
保護者の方から, 授業内容の変更のご提案があった場合は対応いたします。



(参考資料: がん教育における配慮事項ガイドライン, 一般社団法人 全国がん患者団体連合会)

がん教育の授業を提供した外部講師から、子どもたちの反応や学びについてのメッセージが寄せられましたので、ご紹介します。



苦しい経験のままで終わらせない。  
誰かの「希望」となり、心に光が差し込みますように。

**「ひとりじゃない。  
あなたは誰かの愛しい人」。**

悩んだとき、思い出してほしい。  
私だから伝えられる「安心」を届けます。  
成瀬 絵理(がん経験者)



生徒の皆さんが  
一生懸命に授業を聴いてくれて、  
感想もたくさんいただき、私にとっても  
とても貴重な体験になりました。

もし、がんになったら…ともに支え合い、

**がんに対する正しい情報を  
共有できるように、**

私も精進したいと思います。 **今を大切に!**

島袋 枝梨子(作業療法士・がん患者遺族)



授業を通して生徒の関心の高さに感動しました。  
“がん”は特別な病気ではなく、誰にとっても身近な存在です。  
正しい知識を持ち、

**自分と大切な人の命を守る行動に  
繋げるきっかけ** になれたら嬉しいです。

大嶺 ひとみ(両立支援コーディネーター・がん経験者)



がん教育の授業では、子どもたちの素直な言葉や  
まなごしに、強い可能性を感じました。

自分や大切な人の命について考える時間は、

**子どもたちがこれから歩む  
人生を支える土台になる**と思います。

先生方とともに、子どもたちの気づき、成長を  
これからも見守ってあげたいと思います。

狩俣 勇斗(がん看護専門看護師・がん患者遺族)



2020年乳がん発症。  
がん治療を通じて学んだことや感じたこと、  
自身の経験をお話します。

**“がん”を患っても  
自分らしく生きていくことはできる!**

新垣 志乃(沖縄がん教育サポートセンター理事・がん経験者)



外部講師を経験して私たちの子どもの頃から

このような学習の機会があったら、

“がん”の告知を受けた時のショックが軽減できたのでは?

と感じました。子どもたちにはさまざまな体験を聞いたことから

**柔軟に対応できるようになって欲しい**と願います。

大城 ゆかり(がん経験者)



私はサバイバーかつ高校教師として、生徒に自分の  
体験を伝えています。高校生は社会経験が少ないため  
「がん教育」では知識だけでなく、

**がん経験者や医療者など  
「本物と出会う」**ことが重要だと思います。

喜友名 秀美(高等学校教諭・がん経験者)



「死ぬのは怖くないですか？」そんな直球の質問を予想していたが、  
「がんの患者さんにはどう接したら良いですか？」との質問。  
大人な6年生だった。

**共感してもらえると痛みは半分になる**ことを伝えた。

子どもたちの変容に期待したい。  
豊見山 博子(ピアサポーター・がん経験者)

中学校、高等学校、そして教育センターの研修会でお話する機会をいただきました。皆さんが熱心に耳を傾けてくださり、温かい時間となりました。生徒さんから「つらくても前向きになれると知り、勇気もらった」、「病気をもっと身近に考えたい」との声、先生方からは

**「体験者の話は説得力がある。離島にもぜひ」**

とのお言葉をいただき、励みになりました。  
まじま なおこ(がん経験者)

**がんになったからこそ気づけたことがあります。**

そしてそれが今の励みになっています。授業のたびに私にとっても学びがあります。生徒さん、先生方、外部講師の方々、みなさんに感謝です。  
いくこ(がん経験者)

**外部講師の語り  
耳を傾ける  
子どもたちのキラキラした表情**

を見るたびに、  
この学びが持つ大きな力を実感します。  
こうした学びがこれからも広がっていくことを願っています。

照屋 典子  
(沖縄がん教育サポートセンター 理事・看護師)

浦添総合病院の乳腺外科医師、臨床遺伝専門医として、  
がん検診率向上を願い、がん教育を開始しました。  
知識と勇気を育むため、学校や行政と連携し、

**がんと向き合う力を育てる活動**をおこなっています。

宮里 恵子(沖縄がん教育サポートセンター理事・医師)

「ああ、**私の経験が子どもたちの未来に役立つんだ**」と思える瞬間。

“がん”を経験したからこそ伝えられる  
「いのちの大切さ」「支えてくれる人のありがたさ」。  
この活動は、がんと共に生きる社会づくりへの貢献であり私にとって大きな学びです。

りえさん(認定看護師・がん経験者)



子どもも大人もひとりで抱え込まなくていい、心と体の小さなサインに寄り添える社会になりますように。  
私の辛かった

**“がん”の経験が誰かの力に**

なればと願っています。

金城 和久子  
(がん経験者)

健康な子どもたちが、“がん”や“健康”、“いのち”のお話に興味を持ってくれるのか、上手く伝わるのか不安でしたが、

**どの生徒さんも集中して聴いてくれます。**

私は“がん”だけではなく“難病”もあるので「もし、友達や家族がなったら何をしてあげられるのか。健康な毎日が素晴らしいこと。」に重きをおいてお話しています。

久田 優子(がん経験者)



**外部講師からのメッセージ**

## 1. 文部科学省が提供するがん教育関連資料

- がん教育推進のための教材 補助教材  
小学校, 中学校・高等学校版がん教育プログラム 補助教材  
教師用指導参考資料や映像教材, スライド教材など  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm)



- 外部講師を活用したがん教育実践ガイドライン  
外部講師を活用したがん教育の進め方など  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/20210312-mxt\\_kouhou02-1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/20210312-mxt_kouhou02-1.pdf)



## 2. がんに関する基礎情報サイト

- がん情報サービス(国立がん研究センター)  
信頼性の高いがんに関する情報サイト。  
授業準備や質問対応に活用できます。  
<https://ganjoho.jp/public/index.html>



- 日本対がん協会 がんの基礎知識  
がんの統計情報や各種がんの基礎知識をわかりやすく掲載。  
<https://www.jcancer.jp/information/>



## 3. がん教育における配慮事項について

- がん教育における配慮事項ガイドライン  
(一般社団法人 全国がん患者団体連合会)  
学校における基本的な配慮事項と対応例などが掲載されています  
<https://x.gd/Yr9bT>



## おわりに

本ハンドブックは、がん教育における外部講師の役割と活用の意義を、先生方により身近に感じていただくために作成しました。医療従事者の専門的な知識、がん経験者やがん患者家族／遺族の実体験は、子どもたちが「自分の健康を考える力」を育むうえで大切な学びとなります。

沖縄には、相手を思いやり、寄り添う気持ちを表す「ちむぐる(肝心)」という言葉があります。外部講師の皆さんが語る経験や思いには、この“ちむぐる”があたたく息づいています。

本ハンドブックが、外部講師の活用を検討する際の安心に役立ち、学校と地域が“ちむぐる”でつながり、子どもたちの未来を支える力となれば幸いです。

琉球大学医学部保健学科・教授  
沖縄がん教育サポートセンター・理事 照屋 典子



おきなわ がん教育ハンドブック ～ちむぐる(肝心)でつなぐ がん教育～

発行日：2026年3月24日

発行元：琉球大学医学部保健学科 成人・がん看護学 照屋 典子

沖縄がん教育サポートセンター 理事長 徳元 亮太

編集：沖縄がん教育サポートセンター 玉寄 育子／照屋 典子／徳元 亮太

編集協力：糸満市立糸満小学校, 豊見城市立上田小学校, 那覇市立金城中学校,

沖縄県立開邦中学校, 沖縄県立那覇国際高等学校

印刷：国際印刷株式会社 〒901-0147 沖縄県那覇市宮城1-13-9

本冊子は、2025年度科学研究費基盤研究(C)「がん体験者を活用した児童へのがん教育普及のための授業支援プログラムの構築」(研究代表者:照屋典子)の助成を受けて作成しました。



**OKINAWA CANCER EDUCATION  
SUPPORT CENTER**